

令和８年度 第２回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和８年７月３１日（金）１３：３０～１４：４０

■開催場所：天王寺動物園 学習棟だいしんわくわくホール（小）

■出席者：

（委員） 高坂 佳詩子 弁護士法人色川法律事務所 弁護士
坂本 治也 関西大学 法学部 教授
野田 英樹 帝京科学大学 生命環境学部 准教授
原 久美子 公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事
水上 啓吾 大阪公立大学大学院 経営学研究科 教授

（大阪市） 佐々木 康晴 建設局公園企画運営担当部長
秋山 岳彦 建設局公園緑化部事業所企画調整担当課長
吉崎 英一郎 建設局公園緑化部調整課動物園支援担当課長代理

外１名

（法人） 計６名

【議事要旨】

１ 開会

２ 地方独立行政法人天王寺動物園の令和７年度業務実績評価（大項目・全体評価）について

資料１について事務局より説明

＜意見＞

- 大項目における市の評価案は妥当である。（全員）
- 令和７年度の獣舎整備については、予算面だけでなく、工期内に獣舎が完成したことは評価しており、市長評価の記述に反映すべき内容と考える。（高坂委員・原委員）
- 企業との連携は増収につながる重要な取組であることから、周辺企業との連携のみならず、動物園との親和性といった視点も含め、活動の範囲を広げていくことが望ましい。（高坂委員）
- 大項目評価と小項目評価の表記が合致していないように思う。表記内容について検討されたい。（坂本委員）
- 大項目３－１については、小項目でⅡ評価が１つあるものの、Ａ評価に近いＢ評価であると考ええる。（原委員）
- 市長評価の記述において、種の保存や調査研究など動物園の役割に関する記載がないが、重要な取組であることから、記述に反映すべき内容と考える。（野田委員）
- 大項目３－２、経費の節減について。「節減」という表現では、減らすことのみが目標であるように捉えてしまう。削減はもちろんのこと、合理的な支出をしているかを評価する項目であるならば、「節減」という表現に違和感がある。（坂本委員）

3 地方独立行政法人天王寺動物園の第1期中期目標期間における業務実績の評価について
資料2について事務局より説明

<意見>

- 第1期中期目標期間の業務実績評価について、本市評価は妥当である。(全員)
- 大項目1－4について、ヨウスコウワニの繁殖成功は国内で2園目であり、素晴らしい実績であることから、総合評価としてS評価としてもよいと考える。(野田委員)
- 大項目1－4は繁殖と調査研究という2つの項目がある。調査研究の項目において、投稿論文などの実績増加といった今後の伸びしろを勘案し、A評価とすることに異論はない。(原委員)
- 「大都市大阪にふさわしい『国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園』を目指す」ということが中期目標に記載がされているが、当該目標に見合う評価項目がないため、今後検討いただきたい。(坂本委員)
- 来園者の国際化への対応においては、多言語化対応等も継続的に実施している。(高坂委員)
- 日常業務として対応していることの中に、評価に値する取組があるように思う。来年度以降は、そういった視点でのアピールもしていただきたい。(原委員)
- 人材確保・育成について、地方独立行政法人化後5年間の状況変化を評価に示すことにより、次につながる部分もある。(水上委員長)
- 人材の定着について、離職率の動向を調査することで、職場の魅力度を測る指標になるため、評価基準への反映の可否を検討されたい。(野田委員)

4 閉会